

平成 25 年度 全国学力・学習状況調査等を活用した学力向上に向けた事例

事務所名	県北教事	学校名	久慈市立夏井小学校	TEL	0194-53-3715
------	------	-----	-----------	-----	--------------

「学調を活用した授業改善」と「調査結果を個に返す」取組

1 ねらい

- 全国学調等の結果分析を、児童一人一人の学力向上につなげる。
- 全国学調等の調査問題の分析を通して、授業改善を進める。

2 具体的な実践

(1) 調査結果を一人一人の学力向上につなげる取り組み

夏井小学校では、単元テストも含め各種テストを行った際は、必ずその日のうちに採点と課題の分析を行うことにしている。この分析をもとに、翌日から課題克服のための取り組み（ドリル学習や取り上げ指導など）を間接指導場面等を活用しながら開始する。

また、学年として落ち込みの大きいものは、関係する単元の指導書に正答率等を記入した付箋を貼り付けて残し、次の担当者に引き継ぐことで、指導の充実につなげている。



【指導書に貼られた付箋】

(2) 調査問題の分析を通して授業改善を進める取り組み

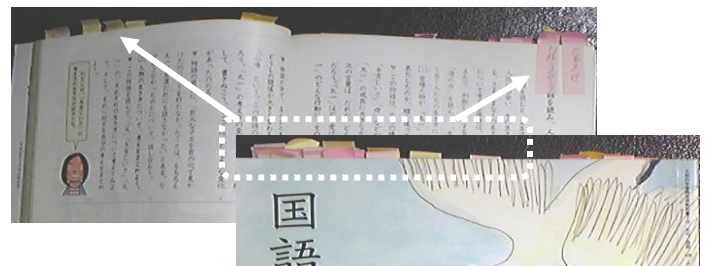
夏井小学校では、全国学調終了後、調査問題を全職員で解く時間を設定している。

①国語科について

重点課題としている国語の読解力育成のための指導のあり方を検討するために、全国学調「国語 B」には時間をかけ、「どのような力が求められているのか」「そのために、どの単元でどのような指導を行う必要があるのか」について、教員間で検討を行っている。

ここで出された意見をもとに、該当する単元の指導を構想するようにしている。

併せて、調査問題と関係の深い単元を検討し、教師用の教科書に付箋で記すことで、意図的・計画的な指導を行えるようにしている。



【教科書に貼られた付箋と指導内容】

②算数科について

算数科では、教科書を積極的に活用した授業展開を行っている。それは以下の理由からである。

- ・少人数学級でも多様な考えに触れさせるため
- ・教科書に示された内容をモデルとして、それに沿って自分の考えを進める力を育てるため

この「モデルに沿って考えを進める力」は、夏井小が学調問題の分析を通して見出した力である。

3 成果

- ①取り組みの成果が、全国学調や県学調の結果に具体的な数値で現れていること。
- ②授業改善が進み、4・5年生の95%の児童が「(国語・算数の)授業がわかる」と回答していること。
- ③「求められている学力」「そのための指導のあり方」について教職員の理解が進んできたこと。

<担当指導主事から>

【県北教育事務所 指導主事 筒井 裕一】

夏井小学校は、複式指導のデメリットと考えられがちな間接指導の時間を、「自ら考える姿勢づくりの場」「定着のための時間を確保できる場」ととらえ、積極的に活用している。教師が、自分たちのおかれている状況をどう活かし、児童一人一人の指導にどうつなげていくかを、一人一人真剣に考え、議論し、同じ気持ちで指導に当たっている。こうした姿勢は、学校規模の大小に関わらず、おおいに参考になる。